

大交流ビジョンの実現に向けた 財源のあり方に関する議論のたたき台

- 1.豊岡市における観光産業(宿泊業、飲食サービス業)は、産業規模が最も大きく、かつ、最も外貨を稼ぐ産業であるため、基盤産業の一つとして位置づけ、多くの投資を行っている。
- 2.観光市場は世界的に成長産業であり、日本においても訪日外国人観光客が増加している。今後は、インバウンドの取り込みがさらに重要になってくる。
- 3.地域間競争が激化するなか、地域経済の活性化のためには、観光産業へ戦略的、持続的な投資をしていく必要がある。
- 4.一方、本市の歳入は、国からの交付金等の縮減や人口減少に伴う財政規模の縮小により、急速に悪化していく。
- 5.また、歳出は、社会保障関係経費や公共施設改修費が大幅に増加するため、観光関係事業に充てる予算は削減せざるを得ない。
- 6.このため、大交流ビジョンを実現するためには、観光振興を目的とした安定的な財源を確保する必要があるのではないか。

観光振興を目的とした安定的な財源を確保するための 今後の検討事項

- 新たな財源の負担のあり方について
- 新たな財源の使途について
- スケジュールについて